

総務課 事業報告

事業の概要

事業計画	主な事業の内容	主な事業の実績
事業の発展、充実、拡大に努めます。	社会福祉法の改正の内容を十分に理解し、組織のガバナンスの強化と事業運営の透明性の向上を図ります。	社会福祉法改正による定款変更など、組織の根幹の大幅な変遷を向かえ、年度当初から改正に係る研修や行政の説明会への参加、他事業団の視察を通し情報収集に努めました。
	高齢者福祉、障がい者福祉の動向を把握し、今後の事業拡大につながるサービス展開を検討します。	新年度に向けて、所轄庁への届出や登記等の事務手続き、次期役員候補者の検討、次期評議員、評議員選任・解任委員会委員の就任に関する手続きを計画通り行いました。
	防災マニュアルに基づき、災害時の備えを行い、必要な業務が継続できるよう危機管理体制の向上を図ります。	新規事業に向けて、障がい者福祉施設の視察や研修に参加し、情報収集に努めました。
	事業団の存在をより多くの方に知っていただくよう、ホームページやパンフレットを利用して様々な情報を発信します。	ほのぼのマイタウンにおける土砂災害時に備えた防災訓練を行い、福祉避難所としての役割を確認しました。
事務手続きを適正に行い、透明性のある経営を行います。	法人全体の経費削減に向けて、定期的に予算の執行状況の確認、報告を行います。	高額な契約については入札により決定し、新年度に向けた予算編成事務を適切に行いました。
	マイナンバーに関する事務手続きは、規程に基づいた適切な処理を行います。	運営の透明性を図るため、公認会計士へ相談し、経理規程などの改正に取り組みました。また、各種助成金を適切に活用し、事業運営の安定を図れるよう努めました。
	新会計基準に基づいた適切な会計処理を行います。	
職員の定着を図り、人材育成に努めます。	人材育成の具体的な計画を策定するとともに、人事考課制度、目標管理制度及びスキルアップ研修の一体的な運用を行いながら、人間性豊かで専門性の高い職員の育成に努めます。	研修計画に基づき、経験や資格に応じた内外の研修会に積極的に参加しました。また、ハローワークや秩父市雇用創造協議会主催の就職面接会へ出席し、積極的に求人活動を行いました。
	ストレスチェックを導入し、心身の状態を把握しながらメンタルヘルスの不調を未然に防止する体制作りを進めます。	ストレスチェックの導入へ向け、安全衛生委員会で実施要綱を策定し、10月に実施しました。
	個々の職員専門性を向上させるため、職員の資格取得に対する支援を行います。	介護福祉士資格取得に向けて、各事業所と連携を図り勉強会を実施し、7名の職員が資格取得することができました。
	福祉の専門集団として、今までに築き上げた専門的知識を地域社会に向けて積極的に発信していきます。	
建物及び設備等の適正な管理、見直しを行います。	建物及び設備に関して、修繕及び機器更新を計画的に行います。	設備の大規模修繕に備え、修繕計画を立案しました。

秩父市特別養護老人ホーム借楽苑 事業報告
 秩父市特別養護老人ホーム借楽苑 短期入所 事業報告

事業の概要

事業計画	主な事業の内容	主な事業の実績
一人ひとり誰もが生きがいを感じ、笑顔あふれる暮らしの場を利用者と共に創造します。	利用者自治会(なかよし会)において、生活の希望や生活課題への意見を受け止め、利用者の思いに添った暮らしを実現します。	なかよし会の開催等を通じ、利用者一人ひとりの希望を受け止め、外出行事や苑でのレクリエーション活動に取り組みました。
	行事、レクリエーションや趣味活動等に取り組み、生きがいづくりを行います。	小鹿野春祭り、塚越花祭り、あめ薬師、川瀬祭り、両神ふるさと祭り、秩父夜祭り、秩父神社節分祭など地域行事に積極的に参加しました。また、季節感を感じることができるよう、荒川、長瀬の桜見学、足利フラワーパーク、いちご狩り、茅ヶ崎海岸、みかん狩り、干し柿作り、芦ヶ久保の氷柱見学などの行事を実施しました。
	利用者一人ひとりの特技を活かしての活動や、利用者の支え合い等を支援し、主体的な暮らしの場を実現します。	
個人史や人と人との繋がりを尊び、ご家族や地域との関係を大切にすることで、地域社会の一員としての暮らしを実現します。	広報誌「ほのぼの借楽苑だより」の発行、フェイスブックの活用、日々の暮らしの写真の掲示等により、施設での暮らしを発信することで、ご家族や地域の方にとって施設が身近なものとなるよう取り組みます。	食事を通じての家族交流、個人史を汲んでの回想の実施、一人ひとりの思いを受け止めての買い物や個別外出にも取り組みました。これら様々な実践を通じて多くの人とのつながりが生まれ、たくさんの笑顔のなかで生きがいを創造することができました。
	食事会など様々な行事にご家族に参加いただくことで、家族関係を深めると共に、ご家族の協力のもと施設生活の充実に取り組みます。	施設を退所された方のご家族を施設にお招きし、お別れの会を行いました。職員とご家族とで、施設での生活の様子や若いころの様子、思い出などを語り、介護者としての労をねぎらうとともに、退所された方と出会えた喜びを共有できるよう取り組みました。
	利用者、またその家族の希望に寄り添い、外出・外泊の支援や地域行事への参加等を行うことで、新たな人と人との繋がりや地域との繋がりが構築できるよう取り組みます。	
生活困難者等への支援において、迅速かつ適切に対応することで施設機能を最大限、地域に還元します。	秩父市をはじめとした行政機関や包括支援センター等との連携を密接に持ち、虐待等の緊急ケースに迅速に対応します。	行政機関やケアマネージャーから、緊急的に在宅生活が困難となったケースを複数受け入れました。また、徘徊等のある重度認知症者や褥瘡処置等の医療ニーズの高い利用者も受け入れました。
	重度認知症者や医療ニーズのあるケースについても積極的に受け入れます。	
	特養入所利用率98%以上、短期入所利用率90%以上を実現します。	特養入所利用率94.0%、短期入所利用率97.8%でした。

<p>専門機関、専門職としての誇りを持ち、組織として研鑽を積み、謙虚に実践の向上に努めます。</p>	<p>食べることの喜びが感じられるよう、ゆったりとした食事場面をつくります。また、一人ひとりの嗜好や食事摂取状況にあった食事提供を行い、食生活の充実に努めます。</p>	<p>誕生日会や食に関する行事を実施し、全国ご当地グルメの提供、デザートバイキング、鉄板焼等の実演、井ぶりや麺類のセレクト食、手作りハンバーグ、年越しそばの会、恵方巻作りを実施し食べることの喜びを感じてもらいました。</p>
	<p>嘱託医との連携を適切に行います。また、日々の健康観察を行い、その情報を共有しケアを実践することで健康増進に努めます。</p>	<p>嘱託医や協力病院と密接に連携し、利用者の健康維持に努めました。</p>
	<p>他職種連携のもと個別機能訓練計画に基づいたリハビリを実践することで、身体機能を維持し、安全に可能な限り自立した生活が送れるよう取り組みます。</p>	<p>定期的な大掃除を位置づけ、苑内の美化に取り組みました。また、空気加湿清浄機の導入やこまめな換気に取り組むなど、生活環境の改善に努めました。様々な取り組みを通して職員の生活環境整備に関する意識を啓発しました。</p>
	<p>定期的な歯科往診と歯科衛生士の指導・助言に基づき、口腔ケアに取り組むことで健康づくりにつなげます。</p>	<p>認知症に関する研修、身体拘束・虐待防止研修、看取り介護研修、褥瘡防止研修、リハビリ研修、事故防止研修、感染症に関する研修等を行い、専門的知識を深めました。そして、委員会や係の活動を通じて、職員一人ひとりが責任とやりがいを持って業務と処遇改善に取り組みました。</p>
	<p>グループでのゆったりとした入浴場面の提供や個別性を重視した快適な排泄環境を整えることで、安楽な生活が送れるよう取り組みます。</p>	
	<p>苑内美化やさわやかな空間づくりに取り組み、心地よく生活できる環境を実現します。また、個別の身体状況等に応じ生活環境を整えることで、安全な暮らしの場を実現します。</p>	
	<p>認知症の専門研修、人権擁護、事故防止、感染症に関する研修等を行うことで、知識の共有と深化をはかり、職員の資質向上に取り組みます。また、資格取得に向けての気運を醸成し支援します。</p>	
<p>職員間の意見交換を活発に行うことで、一人ひとりの思いを実践の中に活かし、各人のやりがいを高揚し、組織として研鑽を深めます。</p>		

秩父市立養護老人ホーム長寿荘 事業報告

事業の概要

事業計画	主な事業の内容	主な事業の実績
<p>専門機関・専門職として研鑽を積み、改善改革に取り組み、質の高いサービスを提供します。</p>	<p>職員間、職種間の情報共有と意見交換により、その人らしさを尊重した支援をチームで実践することで、質の高いケアの実現に努めます。</p>	<p>多職種による個別支援計画に沿った支援を行い、生活上の課題が生じた際にはミニカンファレンスを開き適切なケアを実施しました。また、利用者一人ひとりが快適に過ごせるよう居室環境の整備を行いました。</p>
	<p>小さな体調変化をしっかりと観察し、嘱託医を中心とした医療機関との連携を深めることで、入所者の皆様がいつまでも元気に過ごせるよう、健康管理に努めます。</p>	<p>転倒などの事故が発生した際には速やかに事故分析を行う事により再発防止に努めました。加齢により介護が必要となった方にはスケールメリットである併設の介護サービス事業所を利用することにより、施設生活が継続出来るように努めました。</p>
	<p>身体状況の把握、生活環境の整備、事故防止策の分析などに取り組み、安全で安心な生活の場を構築します。</p>	<p>医療ニーズの増加に伴い、高度な治療が必要な入所者には、埼玉医科大学病院、国際医療センターへの入退院支援を行い、入所後も安心して生活できるよう努めました。</p>
	<p>要介護者が必要な介護サービスが利用できるよう関係機関と協力し、入所生活が維持できるよう支援します。</p>	<p>また職員の障害者への理解を深める為に、統合失調症の研修会への参加、障害福祉サービス事業所への施設見学を実施しました。その他、地域の方々へ障害に関する講習会を開き、理解の促進に取り組みました。</p>
	<p>高齢者支援に限らず、障害者(精神障害、知的障害)に関する支援方法についても研鑽を積み、多様で幅広いニーズに対する支援ができるよう研修参加や施設見学を積極的に行います。</p>	
<p>温もりのある施設生活の中で、ご家族や地域との繋がりを大切に、地域社会の一員としての暮らしを実現します。</p>	<p>入所者の思いやその置かれた状況を鑑みて、明るく家庭的な雰囲気施設生活を通して、その人らしい生活の実現に努めます。</p>	<p>毎月、自治会議を開催し、利用者一人ひとりの声に耳を傾け、行事やレクリエーション活動へと反映させました。今年度は、個別外出や少人数でのグループ外出を行い、画一的でない、満足度の高い外出支援を実施しました。</p>
	<p>自治会議の開催を通じ、入所者の声に耳を傾け、その声を行事やレクリエーション、趣味活動等に反映します。</p>	<p>ご家族へは、定期的に広報誌を発行し、施設での生活風景を伝え、行事等に家族が参加できるように取り組みました。</p>
	<p>入所者個々の身体状況に応じ、画一的にならない外出支援、社会参加に取り組みます。</p>	<p>地域交流については彩の国ボランティアの受け入れや、地域行事等への参加を通じて、社会との繋がりを大事にした活動を行いました。また施設内作業を通じて役割を持つことにより、「生きがい」を感じてもらうよう支援しました。</p>
	<p>広報誌「ふれあい長寿荘だより」の発行や、日頃の生活状況の報告、相談の実施等により、ご家族との繋がりが深まるよう努めます。</p>	
	<p>ボランティア、慰問等の受け入れ、地域行事への参加を通じて地域交流、社会参加の機会をつくります。</p>	
	<p>入所者の施設内作業を促進し、働くことや共同生活の喜びを感じることができるよう、生きがいづくりを支援します。</p>	
<p>全職員で現状課題を把握し、健全な施設運営を図ります。</p>	<p>入所利用率98%を目標とし、安定した運営を図ります。</p>	<p>年間の入所利用率は99.8%で、ほぼ満床を維持しました。秩父市をはじめとした入所措置機関と連携を図り、DVを受けた利用者、独居生活が困難な方などの受け入れを積極的に行い、地域の社会資源として貢献することができました。</p>
	<p>諸経費のコスト削減に努め、適切な事業運営を図ります。</p>	<p>職員全体で、無駄のない物品購入や節電を心がけコスト削減に取り組みました。</p>
	<p>秩父市をはじめ、入所措置機関と円滑かつ速やかな連携に努め、経済的および環境的な理由による生活困窮者等に対する社会資源として地域社会に貢献します。</p>	

蒔田デイサービスセンター 事業報告

事業の概要

事業計画	主な事業の内容	主な事業の実績
利用者、家族、関係者及び地域がもつ福祉サービスに対するニーズに沿った事業を展開していきます。	積極的に利用希望を受け入れ利用率の向上、定員80%を目標とすると共に、諸経費等のコスト削減に努めます。	今年度より開始された「介護予防・日常生活支援総合事業」により、5名の利用者を受け入れました。 また、秩父市外から基準該当障害福祉サービス利用者の受け入れを行いました。
	より多くの方々に利用して頂けるよう地域にある人や物などあらゆる資源を活用して、特色のあるサービス提供に努めます。	今年度の利用率は70%でしたが、短時間利用、個別外出、個別リハビリなど利用者のニーズに合わせたサービスを実施しました。特に、理学療法士によるリハビリサービスは好評でした。
	事業所独自の『強み』をアピールするため、「独自の強み」に気づき、他事業所との差異性をあらゆる場面で訴求できるよう努めます。	職員の資質向上については、介護福祉士の資格取得に向け、勉強会に参加しました。
	広報誌・ホームページ等で広く活動内容を情報発信します。	毎月のミーティングで、利用者の状況や新しい制度の情報などを確認し、職員間で周知徹底を図りました。
	新総合事業のサービス開始に伴い、職員全体で事業に取り組み、地域に密着したサービス提供の尽力に努めます。	職員のメンタルヘルスでは、個別に職員からの聞き取りを実施することで日頃の不安を軽減するよう努めました。
人事考課を適正に行い、より質の高いサービスの提供と組織の活性化を実現します。	職員の資質の向上に資するため研修を積極的に行います。また、それぞれの事業所及び職員が持つ情報や知識を組織全体として活かすことができるよう努めます。	
	事業所間相互の協力体制を確立し、各事業所と連携を図り業務の効率化に努めます。	
	安全衛生委員会を通じて安全で快適な職場環境の整備に努めます。また、職員のモチベーションを低下させないようメンタル面のフォローを含め心の健康管理に努めます。	
	OJT・OFF-JT、自己啓発等の行いやすい体制づくり、資格取得に向けた支援体制の充実に努めます。	
将来においても利用者に安定したサービス提供ができるように努力を行います。	制度の動向・方向性を的確に把握し、職員に分かりやすく周知するように努めます。	
	事業所の稼動状況を定期的に分析し適正な収入が確保できるように努めます。	
	職員一人ひとりに至るまで共通の意識と目標が浸透した職場づくりに努めます。	

秩父市高篠デイサービスセンター 事業報告

事業の概要

事業計画	主な事業の内容	主な事業の実績
利用者一人ひとりが、それぞれの持てる力を活かしながら、安心して住みなれた地域で生活できるよう支援します。	利用者が安心して在宅生活が継続できるよう、地域、医療、介護といった他職種連携による「チームケア」で支援します。	老々介護や独居、また退院後の在宅生活といった介護負担が大きな場面や環境に対し、各関係事業所と連携を図り、在宅生活が継続できるようチームケアで支援しました。 また、身体状況の変化や家族の都合にあわせ、利用日の変更や送迎時間の調整など柔軟な対応を行いました。
	利用者が持つ豊かな経験と知識、技能を活かせるような環境を整備します。	
	利用者が望む場所での生活を継続していくために、身体状況や家族の変化に対応しながら支援します。	
介護予防・日常生活支援総合事業に取り組み、要支援者の能力を最大限活かしつつ、能力に応じた柔軟な支援をしていきます。また多様化する利用者ニーズに応えられるよう、福祉サービスの提供体制の充実を図り事業を展開していきます。	多様化するニーズにも柔軟な受け入れをし、定員80%を目標に掲げ利用率の向上に努めます。	今年度は、34名の新規利用者を受け入れました。定員30名に対し、1日平均利用者数26名、利用率は86.8%となり、目標である80%を達成できました。
	利用者一人ひとりに、きめ細かな支援を行えるよう、介護保険などフォーマルなサービスだけでなく、ボランティア等の協力を得ていきます。	
	上質なサービスを安定的に供給するため、可能な部分での支出削減、収入の確保に努めます。	
人材育成に努め、利用者のニーズを把握するとともに、質の高い福祉サービスの提供を目指します。	職員の資質の向上に資するため、年間計画に基づいて、職員対象の研修を積極的に行います。	チームによる質の高い福祉サービスの提供を目指し、年間計画に基づいた職員研修を実施しました。
	職員それぞれの立場にあったスキルアップ・モラルアップ・モチベーションアップを図り、チームによる質の高い福祉サービスの提供を目指します。	
	OJT・OFF-JT、自己啓発等の行ないやすい体制づくり、資格取得に向けた支援体制の充実に努めます。	
地域に広く開かれた高齢者福祉施設として、積極的に地域と交流を深める機会を設け、地域行事への参加を行います。	地域特性を活かしつつ、学校や学生ならびに地域ボランティアの受け入れを積極的に行います。	ダンスや音楽バンド、歌謡等のボランティアグループの受け入れを行い、地域の方々にも参加してもらえる行事を開催しました。また利用者作品を多くの方に見てもらえるよう会場を設け作品展を開催しました。 地域に広く開かれた高齢者福祉施設として、地元小学校との交流会を実施し、高齢者と触れ合う機会を提供しました。
	地域の方々に参加していただける行事等を実施し、魅力のある場所となるよう努めます。	
	広報誌・ホームページ等で広く活動内容を情報発信します。	

秩父市上吉田デイサービスセンター 事業報告

事業の概要

事業計画	主な事業の実績	主な事業の実績
共通の課題認識をもち全職員で施設運営に参画します。	日々の光熱水費の使用状況を把握し、節電・節水に努めます。必要物品について検討し諸経費等のコスト削減を図ります。	<p>今年度より地域密着型通所介護へ移行し、定員を10名から15名に増員しました。年間の平均利用者数は11.3人でした。</p> <p>地域密着型サービスの要件である、運営推進会議を8月、2月に開催しました。会議では、地区の方々と災害時の対応等について協議することができました。</p> <p>9月に基準該当サービスの新規申請を行い、障がいサービス利用の受け入れ体制を整えました。</p>
	地域密着型通所介護事業への制度移行に伴い、新制度の正確な把握と対応を行います。	
	定員拡大に伴い、広報誌やホームページを活用した積極的な広報活動を行います。ケアマネジャーへのアプローチを積極的に行い、速やかに利用収入の安定が図れるようにしていきます。	
支援困難事例や重度の利用者の受け入れを積極的に行い専門職として質の高いサービスを提供します。	コミュニケーション技術、介護技術を習得し、職員一人一人のスキルアップを図ります。どのような利用者の支援も的確に行います。	<p>地域密着型通所介護への移行や、「介護予防・日常生活支援総合事業」対象者の積極的な受け入れを行い、年間の新規利用者は18名でした。</p> <p>各居宅介護支援事業所からの相談以外にも家族からの直接の依頼に対しても柔軟な支援を行いました。</p>
	緊急時の対応、事故防止、認知症についての研修を実施し、職員の資質の向上を図ります。利用者に安心、安全なサービスを提供していきます。	
	月1回、ミーティングを実施し利用者の状況、事業所内での課題を検討し、事業所全体のサービスの質を向上していきます。	
近隣の地域の人との関係を構築していきます。地域に密着したデイサービスを実現します。	地域住民から寄せられる介護相談等に積極的に対応し、地域住民が安心して在宅生活が継続していけるよう支援します。	<p>運営推進会議での地域住民からの意向を踏まえ、非常災害時の対応や協力体制について話し合いました。</p> <p>また、地域で一人暮らしなど生活に不安のある方の見守り、声かけ支援を継続して行いました。</p>
	近隣の吉田地域や小鹿野への外出を実施し地域との交流、つながりが深められるようにしていきます。	
その人らしさを大切に幸せを感じる事ができるようなデイサービスを全職員で創造します。	全職員でレクリエーション活動を考え作業分担などを協力して行います。	利用者一人ひとりの家族事情や生活スタイルを踏まえて、余暇活動での買い物や季節に応じた地域行事への参加を積極的に行いました。
	利用者の個別ニーズに合わせた外出やレクリエーションを実施することにより個別支援の充実を図ります。	
	ボランティア、慰問の受け入れを積極的に行い地域、世代間の交流を深めていきます。	

秩父市立上吉田高齢者生活支援ハウス 吉祥苑 事業報告

事業の概要

事業計画	主な事業の内容	主な事業の実績
課題意識を共有し、全職員で施設運営に参加します。	職員会議、研修への参加を通じて、情報の収集・共有を図り、適宜課題を検討していきます。	今年度の入退居は入居6名(5世帯)、退去4名でした。年度末時点での入居者は19名でした。
	日々の光熱水費の利用状況を把握し節電・節水に努めます。物品の購入、施設整備の保守など適正な管理を行います。	施設保守の一環として全居室の害虫駆除を6月に実施しました。その他、苑庭草刈り、排水溝の点検、雨どいの清掃など、職員で行える日常的な保守を分担して実施しました。
	入居率の向上を目指し地域住民、民生委員、ケアマネジャーへ情報発信を行います。	上吉田デイサービスのミーティング時に職員研修を行い、感染症や倫理に関する研修などを行いました。
生活支援員としての知識や技術を活用し一人ひとりの更なる資質向上を図ります	入居者のニーズに応じたレクリエーション活動を実施し笑顔があふれる生活の場を提供していきます。	8月に夕涼み会(流しそうめん、花火実施)や10月に山梨県への日帰り旅行、1月に新年会を実施しました。9月25日のほのぼの祭りには、11名の入居者が参加しました。
	地域内の社会資源を把握し、入居者が自立した生活が送れるよう、生活上の相談や助言を行います。	入居者のQOL向上のため、入居者自治会(ひだまり会)を4回(5、6、9、12月)開催し、生活上の希望や行事の相談等を行いました。
高齢者生活支援ハウスに期待される役割を自覚し安心・安全な生活を実現します	秩父市、包括支援センター、居宅介護支援事業所など関係機関との連携を図り、入居等の相談、緊急事例等に迅速に対応します。	介護保険サービスを利用している入居者の支援に際し、担当のケアマネジャーやサービス事業者との相談を随時行いました。
	入居者の生活上のニーズを把握し、すみやかに課題解決が図れるよう支援します。	
	消防訓練や緊急時の対応についての研修を実施し緊急時対応についての強化をはかります。	

秩父市社会福祉事業団居宅介護支援事業所 事業報告

事業の概要

事業計画	主な事業の内容	主な事業の実績
市町村・包括支援センター及び医療機関との連携を事業所職員内において更に強化し、積極的に新規利用者の受入れを行います。	困難ケースや緊急ケースの受け入れを積極的に行い、各個人がその人らしい生活が送れるように支援します。	今年度より介護支援専門員が6人体制となり、支援者の積極的な受け入れができるよう、秩父市立病院等の医療機関や各地域包括支援センターとの連携を深めました。その結果、7月には総支援者数が200名を超え、1月には230名の支援者数となりました。 利用者のニーズを見極め、その人の生活に合ったサービスを、「介護予防・日常生活支援総合事業」を含めた多様な選択肢の中から提供することができました。 週1回の「居宅介護支援事業所会議」「ケア会議」を実施し、担当利用者の把握や地域情報を共有しながら、チームアプローチを実施しました。
	今年度中に200件以上の総支援者数を目指します。	
	『介護予防・日常生活支援総合事業』の委託受け入れを積極的に行います。	
	認定審査会への出席を継続して行います。	
専門的な知識を深め、ケースワークの技術を更に高めることで、個人の生活の質が向上できるような支援を行います。	市町村及び各包括支援センター、医療機関や介護保険事業所との情報交換を行い、更なる連携強化を図ります。	地域包括ケアシステムの構築のため、地域包括支援センター主催の「地域ケア会議」に参加し、5件の事例提供等を行いました。
	地域サービスや新規事業所、インフォーマルサービスの把握を行うことで、ケースワークの質を高めます。	
法改正及び報酬改定への理解を深め、利用者の抱えるニーズに合わせた支援を行います。	介護支援専門員更新研修及び主任介護支援専門員更新研修、県・市町村・各事業所の主催する研修へ積極的に参加し、専門的知識の向上に努めます。	
	「特定事業所加算Ⅱ」の算定を継続できるように、算定要件を理解し、体制・支援内容等の維持や変更を行います。	
	計画的な研修計画を介護支援専門員へ実施します。	
	包括支援センター等から依頼された困難ケース等の事例にも積極的に受け入れを行います。	
	「運営基準減算」や「特定事業所集中減算」等の適用を受けないよう適正な事業運営を継続します。	
	「介護予防・日常生活支援総合事業」の実施や、利用者の負担額における「非課税年金の勘案」の施行、「地域包括ケアシステム」「地域ケア会議」等に、各市町村の動向と合わせて対応します。	

秩父市ヘルパーステーション 事業報告

事業の概要

事業計画	主な事業の内容	主な事業の実績
在宅での生活が継続できるよう利用者の自立度や障害特性に合わせたサービスを提供できるように、職員の資質向上を図ります。	医療・福祉・介護等に関する外部研修への参加、新規職員研修として特養・デイサービスでの実務研修を実施し、職員のスキルアップを図ります。	月1回のミーティング及び内部研修会を開催し職員の情報共有と資質向上に努めました。 外部研修は、事業所の課題である障がい者支援についての研修会に参加しました。
	月1回のミーティングを開催し、利用者の情報共有、支援内容の確認、事例検討の実施、報告・連絡・相談の場とします。	ホームヘルパーが介護福祉士資格の取得に向けて法人の勉強会に参加しました。
	介護福祉士等の国家資格や障がい者支援に関連する資格取得をサポートし、事業団の専門機能を高めます。	
利用者及び利用者家族や地域との連携を深め、地域に根付いた事業所を目指します。	関係機関との情報交換等を行い、連携を強化することで、発生する課題に対し迅速な対応を行います。	秩父地域訪問介護事業所連絡会に参加し、情報交換や連携強化、職員の資質向上に努めました。
	利用者及び家族に対し支援内容を解りやすく丁寧に説明し、意向や希望を尊重した支援を行います。	6月、8月、3月に広報誌を作成し、利用者や居宅介護支援事業所等に配布しました。
	自宅訪問を行い、利用者・家族等へ、ケアマネージャーや関係機関の適切な情報提供を図ります。	
高齢者及び障がいの積極的な受け入れを行い、安定した事業所の運営を行います。	支援困難・緊急なケースを積極的に受け入れるため、事業所に滞在するヘルパーを配置し迅速な対応を行います。	居宅介護支援事業所や地域包括支援センターと良好な関係を構築し、積極的に新規利用者の受け入れを行いました。今年度は、ホームヘルパーを4名増員し、延べ1094名の支援を行いました。
	訪問者数の増加(目標90名)を図ります。	

秩父市重度心身障がい者通所施設ふあいん・ユー 事業報告

事業の概要

事業計画	主な事業の内容	主な事業の実績
利用者に安心して利用していただくよう、質の高いサービスを提供します。	利用者の体調の変化には細心の注意をはらい、迅速かつ適切に対応します。	利用者一人ひとりの体調管理を適切に行い、利用者・家族が安心して利用できるよう努めました。
	研修への参加を積極的に行い、職員のモチベーションを高めると共に、職員個々の介護技術の更なる向上を図ります。	感染症研修、口腔ケア研修を実施し、職員のスキルアップを図りました。
	職員全体でレクリエーション活動に取り組み、暖かみのある支援を実施します。	利用者の趣味や要望に沿った室内レクリエーションや外出を行いました。
	施設設備の補修、修繕などが必要となった際には、秩父市障がい者福祉課へ報告し修理等の対応をします。	秩父市障がい者福祉課と連携を図りながら、避難訓練の実施や、施設設備の確認、修繕を実施しました。
	冷暖房設備の適切な使用を行い、節電を図ると共に、快適に過ごせる空間をつくります。	室温・湿度等、適切な室内環境に配慮しつつ、節電・節水・無駄のない物品購入に努めました。
	効率的かつ適切な運営を行い、サービスの向上に努めます。	ヒヤリハット発生時には、当日中に職員間で検討し、事故を未然に防ぐよう努めました。
	ヒヤリハット及び事故報告があった際には、迅速に職員による検討を行います。	
利用者の社会参加の機会を増やし潤いのある生活を支援します。	地域のイベントへ参加をしながら、様々な方々との交流を図り、潤いのある生活を支援します。	地域で開催されている祭りやイベント、花木の見学等、季節感を感じられる外出を行いました。また、美術館、展示会の見学など個別性の高いレクリエーション活動を実施しました。
	地域のボランティアの活用を促進します。	社会交流が図れるよう、地元のボランティア団体の受け入れを行いました。
	個別での外出支援を実施します。	
障がい者福祉の支援ネットワークを構築します。	秩父市障がい者福祉課をはじめ各関係機関と連携を深め、障がい者支援の知識の向上に努めると共に、秩父市における障がい者を取り巻く現状の把握を行います。	秩父市障がい者福祉課、秩父特別支援学校、他事業所の相談支援専門員等と連携した事業運営を行いました。
	秩父地域自立支援協議会や秩父特別支援学校での会議へ参加し、地域の課題や実情把握及び、情報の共有化を図ります。	秩父地域自立支援協議会、秩父障がい者雇用支援連絡会議、特別支援学校進路説明会へ参加し、情報収集や課題の把握に努めました。
	定期的に広報誌を作成し、ご家族及び、各関係機関へ配布します。	家族や各関係機関へ、年4回、広報誌を発行しました。
	家族懇談会を開催し、ご家族の要望の聞き取りを行います。	11月と3月に家族懇談会を開催し、意見交換を行いました。

障がい者相談支援センター ほのぼの 事業報告

事業の概要

事業計画	主な事業の内容	主な事業の実績
市町村、関係機関と連携を図り、積極的に新規利用者の受入れを行います。	市町村や委託相談支援事業所と相談・連携を密にし、必要に応じて助言等を得ながら対応していきます。	市町村と情報交換を行い、積極的に相談を受ける体制を整えたことで、障がい者36名、障がい児8名、総数44名の支援を行うことができました。また、特別支援学校で肢体不自由教育部進路研修会での講演や進路だよりへの投稿により、相談支援事業所としての存在をアピールすることができました。
	総支援者数35件以上を目指します。	
	定期的にケース検討の場を持ち、情報の共有を図りながら、個々のケースに円滑に対応できる体制をつくります。	
相談援助技術の質を高め、自立支援に向けたサービス支援に努めます。	個人のストレンクスに着目したアセスメントを行い、持てる能力を最大限活用した自立支援を促します。	サービス管理責任者の児童分野の研修へ参加するとともに、県内にある児童発達支援施設や放課後等デイサービス施設の見学、担当者との意見交換を行い、発達障害など児童分野での視野を広げることができました。また、ストレンクスアセスメント研修会に参加し、自立に向けた本人主体の支援、ストレンクスに着目した計画作成について学びました。自立支援協議会が開催する相談支援専門員とサービス管理責任者の連携に関する研修にも参加し、有意義な意見交換をすることができました。
	自己決定を尊重し、当事者との信頼関係を築いていきます。	
	県、市町村、自立支援協議会等が開催する研修会、勉強会に積極的に参加し、専門性の向上に努めます。	
	提供する指定計画相談支援の評価を行い、常にその改善を図ります。	